

意見提出者	KDDI株式会社
1. 項目	電子カルテの共有化等
2. 既存の制度・規制等によってICT利活用が阻害されている事例・状況	<p>医療分野では、カルテの管理が各病院単位となっているため、異なる病院で診療した場合、既往歴や服用している薬などがわからない状況にある。患者のカルテを異なる病院で閲覧可能な仕組みとなっていないため、診察を受ける度に、同様の検査を受ける必要があり、患者にとっての身体的負担や費用面の負担等は改善されないままである。</p> <p>高齢化社会に向けて、これらの重複的な検査を回避し、診察の効率化を促すためにも、どの病院からも同一のカルテを閲覧できるような仕組みを早急に検討することが必要。</p>
3. ICT利活用を阻害する制度・規制等の根拠	—
4. ICT利活用を阻害する制度・規制等の見直しの方向性についての提案	<p>上記のような仕組みの構築によって適切な医療施設間の情報連携が促進される。そのためには、行政が以下についての標準化を推進する制度等を整備することが必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子カルテの共有化：患者の承認があれば、複数の医療機関のカルテ情報を医者が閲覧可能にする ・個人のID化 過去の病歴等をデータベース化する（例えば韓国ではEHR(Electronic Health Record)普及のための国家プロジェクトを推進しており、同様の国家的取り組みが必要。）